

2007年度実習生にむけて

日本語文化専攻日本語教育学講座 日本語教育実習担当

鷲見 幸美

正直なところ、昨年春、私は途方に暮れるような思いでいました。「わたしは実習を強制してしまったんだろうか。やりたくない人に無理にやらせたために、実習に力が入らないんだろうか。実習に意味はあるんだろうか」と悩んだものです。きっとあの頃の私を、みなさんは「一人で怒っている」というような目で見ていたのではないのでしょうか。今のわたしの気持ちは、あの頃とはかなり違います。みなさんの成長を実感しています。「やっぱり実習っていい」と思っています。そんなふうを感じさせてくれて、ありがとう。

みなさんも、わたしのこの気持ちの変化を感じたのではないのでしょうか。そして、それはみなさんの気持ちが変わったということでもあるのだと思います。

日本語教育と今後どう向き合っていくのかは人それぞれだと思いますが、この実習経験がどこかで、何かの役に立つのであれば、嬉しいです。今後のますますの活躍を期待しています。お互いに頑張りましょう！